



企業と消費者の価値共創に関する研究

青木, 慶

(Degree)

博士 (経営学)

(Date of Degree)

2015-03-25

(Date of Publication)

2016-03-01

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

甲第6289号

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1006289>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



学位論文審査要旨

氏名 青木 慶

論題 企業と消費者の価値共創に関する研究

審査 平成27年3月

神戸大学

論文内容の要旨

本研究の目的は、企業が消費者との持続的な共創活動を実現するためにはどうすべきかについて考察することである。具体的には金銭的インセンティブの働きに着目し、事例研究を通してそれが企業と消費者の共創活動に与える影響について確認を行っている。

1つ目の事例では米国のスタートアップ企業である Quirky を取り上げている。同社は全ての製品を共創活動によって生み出す、企業と消費者の共創活動の先端企業である。同社へのインタビューおよび二次情報の収集、販売データの分析から、Quirky ではアイデアを投稿した人を含む全ての貢献者に、その貢献度合いに応じた金銭的インセンティブを付与することで、コミュニティに集まるアイデアの量・質を共に向上させているという仮説が導出されている。これにより同社は持続的な共創活動を実現させている。そして共創活動への参加を通じて、参加者らが個人の能力を向上させているという現象も見受けられていることが報告されている。Quirky では各人への金銭的インセンティブの付与額を全て開示している。全ての貢献者の貢献度合いが可視化されている点も大きな特長として挙げられている。

次に共創活動の事例として、日本最大のレシピ投稿サイトであるクックパッドを取り上げている。クックパッドでは金銭的インセンティブを用いずに、ユーザー同士によるレシピへの評価を可視化することで、持続的な共創活動を実現している。これに対して、同様の仕組みの中に金銭的インセンティブを導入した楽天レシピを取り上げて、比較事例研究を行った。各サイトにおけるクックパッドは各人の貢献度合いを可視化しているサイト、楽天レシピは一律の金銭的インセンティブを活用しているサイトという位置づけで1人あたりのレシピ投稿数や、つくれば投稿数、1レシピあたりのつくれば数などの比較を行い、探索的に以下の仮説を導出している。

1. 一律の金銭的インセンティブは、アイデア・貢献の量に正の影響を与える。
2. 貢献度合いの可視化は、アイデアの質に正の影響を与える。
3. 貢献度合いに応じた金銭的インセンティブはアイデア・貢献の量とアイデアの質に正の影響を与える。

これらの仮説は、楽天レシピとクックパッドにおけるインセンティブの両方を取り入れることで、Quirky が実現しているようなアイデア・貢献の量とアイデアの質を同時に向上させることが可能になるのではないか、という考えに基づいたものである。

本研究ではクックパッド・楽天レシピのレシピ・つくれば投稿者への質問票調査を実施

することで、前述の仮説の検証を行っている。オンラインでのサーベイ調査の結果、一律の金銭的インセンティブ・貢献度合いに応じた金銭的インセンティブともにアイデア・貢献の量に正の影響を及ぼすという仮説は支持されている。また後者は前者よりその効果が大きいことが検証されている。しかしながら、貢献度合いの可視化・貢献度合いに応じた金銭的インセンティブともにアイデアの質に正の影響を与えるという仮説は支持されなかった。

本研究によって、企業と消費者の共創コミュニティにおいて一律の金銭的インセンティブはアイデアの量・貢献の量を向上させること、それが貢献度合いに応じた付与額である場合にはさらにその効果が高まることが明らかになった。

論文審査の結果の要旨

本研究の貢献は、既存研究では共創コミュニティにおいて内発的モチベーションが重要であるとされている一方で、外発的インセンティブの役割については言及されてこなかった点を指摘し内発的モチベーションと外発的インセンティブの共創活動への影響について実証した点である。米国企業へのフィールド調査による事例研究を出発点に『楽天レシピ』と『クックパッド』というインセンティブの提供という点で対照的なサイトをサーベイ調査を組み込んだ比較分析を行い、世界的に言っても先駆的実証研究を行い興味深い発見物を提示している。

以上の理由から、審査委員は、本論文の著者が、博士（経営学）の学位を授与されるに十分な資質を持つものと判断する。

平成27年3月6日

審査委員 主査 教授 小川 進
教授 水谷 文俊
教授 村上 英樹